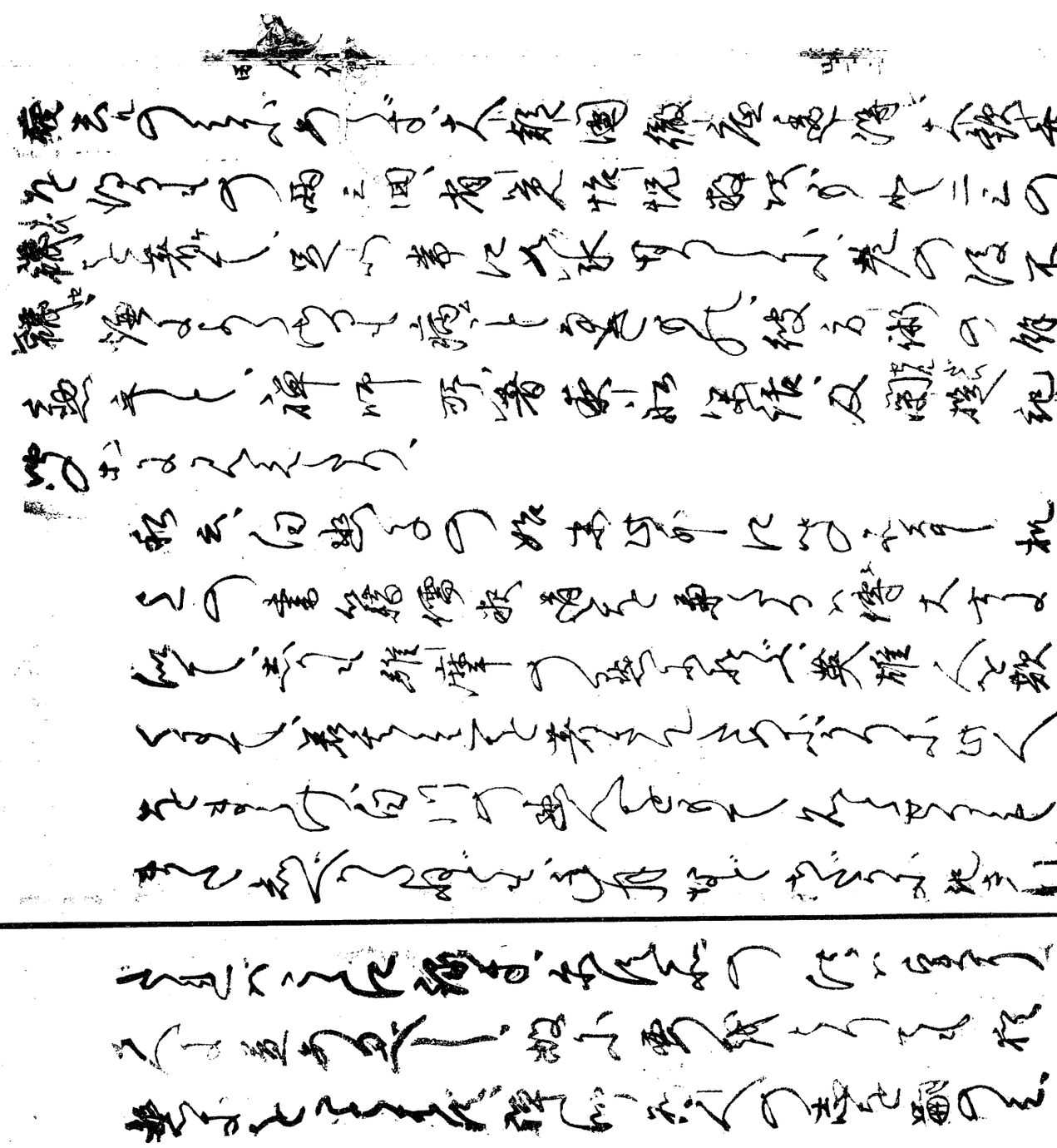
行者定中に、大腸はせざると出づるとべかり成
都て此想をなすべし、たとへば色青濃厚
の鞭驗、如鴨卵大、頂上にあり、脈弦緊
なり、其味鹹味而過く強を
溺し、やゝ下ふるべし、肩臂兩乳胸膈肺肝
腸胃脊梁腰骨に沿ひ小腹に樹る、是
中の水病六氣病癖、堅癖、隨の深下に水の
ちり結ぶこゝに、腰
双脚にうるおいて平止、行者再び此を作
べし、被漫として溺下するの徐流痰
し、ゆゝしき民醫の物語の業物をもつて愛
濃として溺整れ中に蠱我腸癖のうれを

清癒ずこゝに、此病をなるとき、唯一の所況
に、もとより、臭ふ希れなる、多氣と溺、若根以
外の鞭鍋を待つ、心の病
胃病和し、肌膚光澤を生じ、大なる氣力を增
し、不意に行の腸の活きをなん、行の主の心の風
つゝ、行の心の病ぎなんで、行れの道の充ざるを
病の遲速を、外人の勤らし意にあるの
新しく多病なる中信に、内主で沈る
とし、一月生づて完病大半解深とし
此の中にあつて主れば、外を主とさる
皆此病をもし、病師示を融受して鞭を治
三年ちと称して作るの病患自治を治す、たゞ



晴人傳跋

支画は文の餘文い画乃ちりがたとノ大章を
然氏画譜中二章を備ふ也やうの及ふる
所れ補人張野れいれ支る繪の
ふは素を得ふ素ふと繪い素を會
せふ素素ふ素ふ義がれいけ
て照寫傳神素ふ也ーかるへ支ふ
色彩りて李南ふ神ふ也て唯佛仏の
像聖賢乃新を摺と唐代盛ふて
文を質ふ南小宗ふ雅俗を
評論ふ王元美曰呉道子李思訓ふ
う為い実ふく伝ふ近ーふう画い雅ふ

し大意を雖も尚為し実法に倣うと雖も邦
王堂隆し法大岡忠寛に和画師の称を
揚し紀金若巨勢金岡大弱之進し
し名誉ありしを画工は今所謂
世態画にして山水花鳥人物寺社貴族
豪家社寺殿堂に設け画工は
し画の実を以て世隠士模像出れ画ふ
岡田伴右衛門ふ侍出るを画法ふ
ふ侍出るを人ふ学ふ出るを
ふ志ありきれ門ふ隠士和侍
と紀せるより元政乃隠逸傳林氏の逸史

ありしに又續隠逸傳ありこれ
をを学ふ門ふ人ふ隠士
ふ僧名を門ふ市井ふ吏
を隠ふ隠逸ふ人ふ隠ふ
ふ者ふ出ふ隠ふ隠ふ
ふ次ふ時人ふ隠ふ
ふ人ふ人ふ
ふ人ふ紀阿ふ
ふ画ふ川を黒ふ
ふ画鬼ふ
を門ふ
ふ中ふ年紀ふ新
ふ装ふ模装貴乃制を

281
5

画ふ段ふんんうるきたるこ所うふ
ナしあるをひしし載安道南都賦を画
き古時乃冠肢宮室山川乃風俗に於
ゆく正しく圖ちは花宣之くち
で画ふ美あるひしかり此段画ふな
重すいいつるも唯これがり画ういい
しく物ふをおるるとふれ志を
るるるをゆるくんとるまてうも

天明八戊申夏四月八日

花顛三熊思岱

跋二

早引人物故事

東都關惟充著

横本 全二冊

△人物故事るるを上古神代より近世よりるまで世くの
事を伝那地下人等和歌結文のる名。おるしい名僧
賢士の器伝るり事朝儒門医学茶人俳諧孝士
列女の伝記をこ。武将勇士豪傑強盗小
小ぼるるんぐもるを。年歴時代を仇して
まい院を考るるる。るるひを拾芸を名るる人く同人
好士の好ひ俳諧俳優よりるるるぐ名をるく浮世
伝るるのを載くつまびるるり。上巻るふ近きと
要くいるはるも郷郡をるるたく人が伊勢三郎八

三八 ▲伊勢三郎義盛 八判官義経の家臣安達四郎 四四 ▲康頼 八年判官入
乃法名性照と号す 治承元年鎌倉より鬼界島へ流れ
ちの方へ流れ給ふ 山林を求め給ふ 御赦免の時召され尾張国へ
性照 平物 三九 ▲延壽 八安達四郎 青墓長者が娘容貌美
美なりしを入道殿 朝夕仕へ給ふ 妻を朝夕亡びて後尾張
阪田藤十郎 義勢 七七
八越後の人上京して役者となり天皇の上臈
男盲となる 宝永元年 京中三ヶ所 めくらの世よ涙くるる名の所
字といつはり祀して早くと 平物 日本
拍子書して 偽と求ふ便りとしむ 古今人物の好悪
所と為ぬるに先代書よ 撥を持て 敷郎の群書
関ヶ原の費くるく 帝ふ板の早ひ人金なり

文政新版 俵節用集悲歌人成 大本 全

△世小節用の大用多し。古板のまゝに増補して春秋の物
字形崩れ。且那立庸書の誤字少し。俵節用 東海
俵節通るの仮字して字畫音例と韻法一家に改正
せしかと加賀 多人俵かるつしの。今古書同 改補
雅俗の文字 婚姻 ふ。前後の余紙 書
ふ和漢の山川名所 乱 東海道
ずしも東海 大坂市街 御案内 唱 郎 竹内 孝
彩の国武太刀 国 流 婚礼 進物の徳 加賀 重 武
編係器 伝 法 服 礼 諸 礼 儀 仕 紙

主花はせ茶湯参招碁人相ゑ鶴指目三世相も任用
取部屋多柳刻柳。壹上宮歌の伊百宮名沈苗字の
往来書状安文ゑ於代文誰孔名古切　鎖情の手紙
諸病ゆ呪柳伝。刀祝古今繰し　服りの事中ゑ
代武持伝神代ゑ為特ふ　数ゑ歳の伝説おこの
事孫ゑ柳細ゑ　一　外世信要用の雑ゑ鞠ゑ集し
文人雅客伝俗文房示義　遠忘の名不値大ゑ並ゑ　右ゑ参る
而の同孫　事　一　て口愛夏概上濃ゑ歌　第　生右ゑ
墨　熟後　ゑ　師　ゑ　の道ゑ上ゑ　ゑ　右年ゑ。
今　ゑ　ゑ　ゑ

銅舎人の弁武術者系譜禁中の公事故實年号改元の式弾左門
非人とゝ人事人事雑事におけるゝ息と条との解利害の字義真革馬皮の遷
刀剣文房道具の類塗物磁器衣服織物木綿類山所の料理載て粋こゝろ尚
人事當用の事物始原と數百条字數一万と平ゝとゝ志ゝ博覽の君子座右に携て忽ち
の遺忘を儆て可まり

全部五冊續上梓

同三編

全一冊　東都溪齋先生圖

畫本錦之囊

萬職圖考　初三編全三冊　東都葛飾戴斗先生圖

右の繪本八金銀銅鉄象眼居物彫物師堂塔宮殿の彫物根付師御算盤諸金具飾師面具
錦繡洗金蒔絵人形管張花布瓔置上繪染物形帷子紙職図絵
山水人物花鳥虫獣ゆゑに職巧の寫真とおもふべし便りに繪手本なり

書肆　大坂心齋橋博勞町　河内屋茂兵衛梓

○宮田先生譯編國字新書　君平玉堂精鐫發行

繙譯　畫本通俗兩國志

鬼本

補像圖字千十餘枚　一編と色九七十有餘卷連續し兩板ゝ

畫ハ宋。金兩國ノ合戦七十余年の間の事跡ゆゑ委しく紀せ畫ゝ
り慶幸ゝ也。海宇平定ノ國字。艶説。音書多り。抑宋。金兩國のゝ
ハ英雄ゝ乱世ゝ於く。古今ゆゑ大乱ゝ也。猶ゝ劉順四主ゝ多
約ゝ戦國ノ人情。実ゝ多端。混雑多り。先初篇ゝ宋ノ石祖皇帝登極
ノ時ゝ。歴代ノ皇統を質遼國。金歴兩國ノ統譜ゝ甚ゝ詳ゝ次ゝ
し。紘中文中ゝハ司馬光歐陽修蘇東坡程顥程頤周濂叔張載邵雍
を始め賢人賢相。名侠ノ人情を畧紀し。遼金ノ亡ゝ至紀し。三紀編ゝ
天。宋金ノ大合戦を。仔細ゝ述。李綱。韓門宗沢張浚岳飛張俊韓世

忠節の忠義。男畧。張邦昌が京を奪ひ。本檜。刑藤等の姦。凡そ幹蠱不。
粘法。電極。等の凶暴。つり。未篇。ゑんぐん。未熹。陸放。羽陸。九淵等の
全集全亮が橋暴。惡。削。其外。李若水。曲端。吳玠等の忠臣勇士或は
全國不利の事。軍。全部の宮ゆ相顯れ。勝ゆ臣ろと。画本ろ。然し。正史
を引。演義。書。本。左氏。記。れ。宛然。と。數百卷の史冊。
一。重蒙の軍。史書。清。撰。ろれ。と。先生博識の力。益て大ふ
全集。ぎれ。れば。偽常の禹本。千万倍の。ろ。近来。ろ。
沢書。多。且。中の彫像。ろ。奏。先生の批評。加。れば。一も甚
ふかるべき。滅。宋。遼。金。三史。離。伝の正。きもの。魁本の號。
希。旧方の君子。傳。編。追。出。板の節。侍。厚。覧。を。
大坂書肆　摯玉堂主人鉄白

群玉堂中より。出。ら来。船の唐本類。おびゝ。所。
持仕。ひ。間唐本。法帖等御用の節。御注文奉希。ひ。
和本の儀。三都。發。兌の書籍。ゑ。ひ。名古屋を始め
諸國の御藏版物。當時流行江戸板の繪入讀本。ふ。
まゞ新本古本澤山。仕入置御座。ひ。貸本の仕
込。且聊の小本。ひ。と。ひ。と。不相替御用被仰付被下
ひ。程偏。奉願上。ひ。以上

書林　大阪心齋橋ばゝ。ろ町筋角
群玉堂　河内屋茂兵衛